

# 【現在の地域社会の構築に貢献してきた地域のお母さん】

## 宮崎県地域婦人連絡協議会(宮崎市)

代表者：会長 甲斐 恵子

結成：昭和26年(活動歴70年)

### 1 概要

女性の地位向上等を目的に発足し、県内各地域に根ざした地域づくり活動への積極的な参加や、時代を先取る活動にも取り組み、地域に欠かせない存在として、本県の地域振興に多大な貢献をした。



地域の防災訓練



リサイクル活動

### 2 活動に対する主な評価

#### ○先進性・独自性

戦後まもなく女性の地位向上等のために発足。以降、女性の地位向上はもとより青少年の健全育成、交通安全運動、環境問題など、社会情勢の変化に応じた活動に先駆的に取り組んでいる。

#### ○継続性

昭和26年から活動を開始し、今年は70年目の節目を迎える。現在、県内約2,400名の会員が、これまでに培ってきた知恵や経験を活かして、地域に根ざした活動に取り組んでいる。

#### ○発展性

発足当初から女性の地位向上につながる様々な地域活動に取り組んでおり、平成3年からは買物袋持参運動に取り組むなど、生活の身近な観点から問題意識を持って継続して活動してきたことは、現在のSDGsの推進にも繋がる取組でもある。

#### ○自主性

「人に寄り添い地域を支える婦人活動」をスローガンとし、時代の変化とともに地域が直面する課題の解決に向け、各地域の協議会が主体的に考え、行動している。

#### ○協働性・連携性

住民、地域団体、行政と連携しながら、自主的な活動はもとより、様々な地域づくり活動にも積極的に参画し、地域に欠くことのできない存在となっている。

#### ○効果

男女共同参画社会の推進や環境問題への対応など、これまでの長きにわたる活動の成果が、今日の地域や社会全体に波及・浸透してきている。

### 3 活動に関する受賞歴

交通安全功労団体表彰(平成24年度)(交通安全母の会として受賞)  
※交通安全母の会は宮崎県地域婦人連絡協議会で組織されている。

# 【自立・自走のイベントで地域の活気を創出】 南郷町もえる商忘団(日南市)

代表者：団長 竹本 政憲

結成：平成4年(活動歴29年)

## 1 概要

商いを忘れて利潤を追求せず地域を活性化させるという理念の下、行政の支援に頼らない特色ある市民参加型のイベントを作り上げ、地域に定着させることにより、地域活力の向上に大きな貢献をした。



南蛮渡来みなとまつり



命の鼓動プロジェクト

## 2 活動に対する主な評価

### ○先進性・独自性

地域の文化施設の開設を契機として、文化芸術鑑賞に触れる機会が少ない地域住民のため、創意工夫して文化芸術に優れた個人や団体を招聘し、文化芸術に親しむ機会を創出した。

### ○継続性

地域活性化の理念の下、イベントの内容について試行錯誤を重ね、現在では南蛮渡来港まつり(7月)、マリンあちい～音楽祭(10月)、命の鼓動プロジェクト(3月)の3つを開催している。

### ○発展性

東日本大震災以降は、防災意識の向上を目的としたプロジェクトにも取り組むなど、日頃から地域の課題を意識しながら活動しており、日南市において地域住民参加型の取組のモデルにもなっている。

### ○自主性

平成4年の設立当初から行政の補助金に頼らず、地元企業の協賛金等で自主財源を確保している。

### ○協働性・連携性

国民文化祭・障害者芸術文化祭の事業として、南郷大島ミュージアムプロジェクトが立ち上がった際、イベント実施に係るノウハウを伝承するなど、行政や地元団体等と連携した取り組みが図られている。

### ○効果

会員の親睦を図りながらボランティアで活動し、毎年イベントを継続して取り組んだ成果として、新たに若者も加入する中で後継者の育成にも取り組んでいる。

## 3 活動に関する受賞歴

日南市輝く市民協働大賞(令和元年度)

# 【コロナ禍の修学旅行で学習機会を提供】 宮崎特攻基地慰霊碑奉賛会(宮崎市)

代表者：会長 丸山 正行

結 成：昭和58年(※活動歴5年)

## 1 概要

地域に残る戦争遺構を活用したガイド活動に取り組む中で、コロナ禍における県内小中学校の修学旅行先として多くの児童・生徒を受け入れるなど、地域資源の活用や理解促進に貢献した。



掩体壕でのガイド



探訪コースのチラシ

## 2 活動に対する主な評価

### ○先進性・独自性

奉賛会等において慰霊碑の管理や慰霊祭の開催のみならず、掩体壕や弾薬庫等地域に残る戦争遺構を活用したガイド活動を実施している。

### ○継続性

昭和58年に発足し、会員約120名からの年会費で活動を継続する中、5年前から宮崎市の補助事業も活用しながらコースの整備や遺構の周知活動を行うなど、ガイド活動に本格的に取り組んできた。

### ○発展性

今回、コロナ禍で多くの県内小中学校を受け入れた実績を踏まえ、新たなガイドの育成にも取り組んでいる他、戦没者の遺族から提供された資料の展示や、宮崎大学の学生を対象とした講演会を行っており、今後の活動の広がりが期待される。

### ○自主性

地域に残る戦争遺構をより多くの方に知ってもらうため、遺構の主要ポイントや宮崎空港に看板やパネルを設置するなど、ガイド活動を実施しやすい環境づくりに主体的に取り組んでいる。

### ○協働性・連携性

赤江小学校6年生への平和学習や宮崎大学生への講演会など、教育機関や行政と積極的に連携を図っている。

### ○効果

コロナ禍における県内小中学校の修学旅行先として、これまでに37校の受入を行ったことにより、児童生徒のみならず広く県民に戦争遺構や取組が認知された。

## 3 活動に関する受賞歴

特になし